

CSW69参加報告レポート

名前: はら

自己紹介

初めまして。I LADY. からユース代表として派遣していただきました、はらです。私は I LADY. として草の根活動を大学などの若者が集う場所で行ってきました。今年からはSRHRユースアライアンスとしても活動の幅を広げる予定です。

印象に残ったイベント

CSW69に参加中たくさんのイベントに参加しましたが、その中でも印象に残っているのは「FEMINISM FOR THE WIN: STRATEGIES TO DEFY AND DEFEAT ANTI-FEMINIST MOVEMENTS(フェミニズムの勝利に向けて: 反フェミニズム運動に立ち向かい、打ち破るための戦略)」と「Testimonies from Gaza(ガザからの証言)」の二つです。

一つ目のイベント「Feminism for the win: Strategies to Defy and Defeat Anti-Feminist Movements(フェミニズムの勝利に向けて: 反フェミニズム運動に立ち向かい、打ち破るための戦略)」は、ドイツが主催したサイドイベントでした。私はまず、イベント名に「アンチフェミニズム運動」という言葉が含まれていること、さらに「フェミニズムが勝つための戦略」といった力強いタイトルに驚かされました。日本では「フェミニズム」や「アンチフェミニズム」という言葉を市民社会の場ではよく見かけますが、政府が関与しているような公の場で目にしたことがこれまで無かったため、このイベントのタイトルには一種のカルチャーショックを受けました。

二つ目の「Testimonies from Gaza」では、現地でジャーナリストとして活動する女性から、ガザに住む女性や子供たちが置かれている過酷な状況について話を伺いました。ガザで避難生活を強いられる中、女性たちはプライバシーが守られない環境で生活せざるを得ないことが多く、また、非常に多くの母親が子供たちを安全な場所へと移動させようと試みる中で、爆撃によって自らの子供を失っていることを耳にし、現在進行中のジェノサイドが女性や子供の権利をあらゆる面で奪っていることを痛感しました。さらに、一人のジャーナリストが「ある日、爆撃でひどく傷つき、命を落とした子供を少なくとも11人も目にした。この日のことは決して忘れることはない。」と語っていたことが、私の心に強く残っています。

これからの抱負

私は渡航前から性暴力の分野に興味を持っていたため、CSW期間中も性暴力関連のイベントにいくつか参加しました。その中で驚いたこととしてはとても多くの国が、オンライン上での暴力やフェミサイド(性別を理由として女性や少女が標的にされる殺人)について議論していたことです。特に印象的だったのは、オンライン上での女性・少女への暴力はソーシャルメディアなどのプラットフォームやAI開発を担う組織に女性やジェンダーの視点が欠けているからだ、と開発側の課題を指摘していたことです。例えば、AIでは開発チームにおける女性が少なく、ジェンダーバイアスやステレオタイプが再生産されてしまっています。そのためより多くの少女や女性がSTEMやICT教育を受け、STEM分野における女性の割合を高めていく必要があると訴えていました。この問題提起の仕方は日本国内では少ないように思います。そのため私はこれからオンライン分野に

おける暴力問題とともにフェミサイドを調査しアドボカシー活動に励んで行きたいと考えています。

また日本の中絶をめぐる課題点に改めて気づかされました。世界的に見ても日本の中絶費用は高すぎたり、中絶薬が手に入りにくかったり、といった課題がとても深刻な課題であるということを感じたため、より女性に負担のない中絶を普及させることにつながるようなアドボカシー活動にも取り組んでいきます。

【現地での様子】



こちらはガザのイベントでもらったポストカードです。

「ガザでの大虐殺を取材する女性ジャーナリストであることは、生を記録しながら死の只中に生きることを意味する」と書いてありました。



Sexual and gender-based cyberviolence: Challenges and solutions to counter backlash and build a digital world free from violence against women and girls
(性やジェンダーに基づいたサイバーバイオレンス: バックラッシュに立ち向かい、女性や少女に対する暴力のないデジタル社会を築くための挑戦と解決策)
上記のイベントに参加使用としたときの写真です。実は直前に会場変更があったようで、直接イベントを見ることはかなわず、オンラインで視聴しました。